

## 基本情報

科目名	環境衛生学
時間割コード	0528130401
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	星野 輝彦
科目区分	基礎分野 科学的思考の基盤

## 担当教員情報

教員名
星野 輝彦

## 詳細情報

授業の目的・到達目標	環境因子と人との相互関係に関する知識について学ぶ。 生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できるようになる。
履修上の注意事項	授業前にプリントを読み、わからない語句を調べる。また授業で得た知識を復習しておくこと（60分）。 出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の質問や感想を書くこと。次回講義の際回答します。
評価方法	試験90%、レポート10%
テキスト	各講義の際に資料を配布する。
参考文献	「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版） 「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	薬剤師として学校環境衛生管理に關与している。

## 授業計画

授業計画
薬剤師として病院、薬局で勤務経験

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史		
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準		
3	環境化学：生態系と物質動態		
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨		
5	環境因子と健康：化学的因子（重金属、農薬、工業薬品など）の健康への影響		
6	環境因子と健康：化学的因子（環境ホルモンなど）の健康への影響		
7	環境因子と健康：生物学的因子（病原微生物など）の健康への影響		
8	環境因子と健康：物理的因子（放射線など）の健康への影響		
9	環境因子と健康：物理的因子（温熱、圧力、騒音など）健康への影響		
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策		
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策		
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒		
13	生活環境と健康：室内の汚染物質		
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法		

授業計画

薬剤師として病院、薬局で勤務経験

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント		

基本情報

科目名	公衆衛生学
時間割コード	0528130301
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	水 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳永 淳也
科目区分	基礎分野 科学的思考の基盤

担当教員情報

教員名	
徳永 淳也	

詳細情報

授業の目的・到達目標	環境や経済的要因、社会階層等が個人の健康影響要因として再考されており、医療が対象としてきた患者としてではなく、生活者である人の健康問題を社会という文脈で考える視点と態度を養うことが肝要である。本科目では、社会環境の中で、個人としてだけでなく集団として人の健康を捉えることの意義と方法を、具体的な公衆衛生活動の各展開場面において紹介し考察する。多様な健康観を社会的視点から捉え思考する態度の重要性を認識し、人の健康への公衆衛生学的接近に関する手法と考え方を理解できることを目指す。
履修上の注意事項	各講義では確認課題を毎時間課すので欠席しないように努めること。健康問題に対する人や社会の考え方、歴史的変遷における論点を整理・理解することが大切である。日頃から健康問題とその解決法について社会という枠組みから考える習慣を身につけること。講義で取り扱う領域を教科書等により予・復習するように勤めること。(60分)
評価方法	各講義で行う確認課題により100%評価する。適宜、課題には解説を加える。
テキスト	シンプル衛生公衆衛生学2021 鈴木庄亮監修、小山洋、辻一郎編集、南江堂
参考文献	最新歯科衛生士教本 保健生態学 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画	
講義中に配布する資料プリントを中心に、各回の事前事後学修方針に沿って学修し、多様な健康問題の解決のために公衆衛生学が培ってきた理論と具体的方法を学修し、対象に対する公衆衛生学的接近を可能とするセンスを鍛えるよう努力してください。	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	公衆衛生学総論：公衆衛生学的接近とは何か	第1章衛生学・公衆衛生学序論を読み、健康の定義について考えておくこと(事前学修時間：1時間) 健康問題の変遷と公衆衛生活動の基本について修得する(事後学修1時間)	
2	環境と人間：環境保健概論	第6章環境保健を読み、環境保健の捉え方について考えておくこと(事前学修時間：1時間) 生態系や環境問題の諸相について整理・修得する(事後学修1時間)	
3	環境保健を捉える諸相とは何か	第6章環境保健を読み、物理的・化学的・生物学的環境要因について考えておくこと(事前学修時間：1時間) 各環境要因の影響と把握方法について整理・修得する(事後学修1時間)	
4	環境保健の評価と管理の理解	第6章環境保健を読み、公害と環境問題について考えておくこと(事前学修時間：1時間) 環境管理の方法と国際的取り組みについて整理・修得する(事後学修1時間)	

授業計画

講義中に配布する資料プリントを中心に、各回の事前事後学修方針に沿って学修し、多様な健康問題の解決のために公衆衛生学が培ってきた理論と具体的方法を学修し、対象に対する公衆衛生的接近を可能とするセンスを鍛えるよう努力してください。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	保健統計概論：測定指標と現状の理解	第2章保健統計を読み、人口の変遷について国別、地域別の特徴を学修しておくこと（事前学修時間：1時間） 健康測定指標の種類と特徴について修得すること（事後学修1時間）	
6	疫学概論：疫学の歴史的理解と研究デザインの理解	第3章疫学を読み、疫学について概略と歴史的取り組みを理解しておくこと（事前学修、1時間） 疫学研究に関するデザインの種類と特徴について整理・修得すること（事後学修1時間）	
7	感染症：疾病予防と健康管理	第4章疾病予防と健康管理、第5章主な疾病の予防を読み、疾病予防の段階と予防医学の変遷、感染症予防の予防対策などについて概要を理解しておくこと（事前学修1時間） 疾病予防の段階と感染症法、各種疾病に応じた予防方法の概要について修得する（事後学修1時間）	
8	地域保健と保健行政の概観	第7章地域保健と保健行政を読み、地域保健活動の概要について学修しておくこと（事前学修1時間） 地域保健の歴史と活動の進め方、保健所の役割・機能について述べられるよう学修する（事後学修1時間）	
9	保健医療福祉の制度と法規：医療従事者における社会的、制度的環境の理解	第14章保健医療福祉の制度と法規を読み、保健医療福祉行政の概要について理解しておくこと（事前学修1時間） 医療制度、医療保障年金の仕組みについて学修する（事後学修1時間）	
10	母子保健に関する取り組みの歴史的変遷および現状と課題の理解	第8章母子保健を読み、母子保健の概要と課題について理解しておくこと（事前学修1時間） 母子保健法および母子保健の各種水準について理解し母子保健課題に対する取り組みを学修する（事後学修1時間）	
11	学校保健：子どもの健康状況を把握し学校保健の構成領域とその役割の理解	第9章学校保健を読み、子どもの健康状況の概要について理解しておくこと（事前学修1時間） 学校保健安全法、学校保健の領域と構成、保健管理と保健教育について学修しておくこと（事後学修1時間）	
12	産業保健：労働者の多様かつ特異的な健康問題の理解	第10章産業保健を読み、労働者の健康問題史について理解しておくこと（事前学修1時間） 労働安全衛生法、労働衛生の三管理と職域での各種健康診断の概要について学修すること（事後学修1時間）	
13	高齢者の保健・医療・福祉：高齢化の現状を理解し施策内容を関連づけて説明できる	第11章高齢者の保健医療介護を読み、高齢者の健康状態と医療・保健の概要について理解しておくこと（事前学修1時間） 後期高齢者医療制度、介護保険制度の仕組みについて学修しておくこと（事後学修1時間）	
14	精神保健：精神保健における歴史的取り組みを理解し精神保健福祉活動を理解する	第12章精神保健を読み、精神障害の捉え方の変遷、精神障害の現状と分類について理解しておくこと（事前学修1時間） 精神保健福祉活動に関する法令、制度ならびに精神科医療の現状について学修しておくこと（事後学修1時間）	

授業計画

講義中に配布する資料プリントを中心に、各回の事前事後学修方針に沿って学修し、多様な健康問題の解決のために公衆衛生学が培ってきた理論と具体的方法を学修し、対象に対する公衆衛生的接近を可能とするセンスを鍛えるよう努力してください。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	国際保健：健康問題のグローバル化とその組織的対応策を理解する	第13章国際保健医療を読み、グローバルヘルスの現状国際機関の機能について理解しておくこと（事前学修1時間） 国際協力の種類とSDGs等の国際社会における健康と福祉の推進に関わる鍵概念を理解すること（事後学修1時間）	

基本情報

科目名	学校保健
時間割コード	0528432501
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	古賀 由紀子
科目区分	専門基礎分野 口腔保健学科専門基礎分野(歯・口)

担当教員情報

教員名	
古賀 由紀子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	児童生徒の発育・発達、健康そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から、保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌について説明できる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(事前60分)。授業の復習を行うこと(事後60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。
評価方法	筆記試験85%, レポート15%により評価する
テキスト	学校保健ハンドブック 第6次改訂 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい
参考文献	新訂版 学校保健実務必携 第一法規
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	古賀：公立学校養護教諭経験

授業計画

授業計画	
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	学校保健概論・・・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造		
2	学校保健概論・・・学校保健の歴史		
3	学校保健組織活動・・・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織		
4	学校保健計画・・・学校教育目標との関連、保健室経営との関連		
5	学校保健の対象・・・児童生徒の発育発達の現状と課題1。(発育・発達の実態)		
6	学校保健の対象・・・児童生徒の発育発達の現状と課題2。(疾病異常、体力の実態)		
7	学校保健の対象・・・心の健康問題、精神保健		
8	学校保健活動・・・保健管理：領域側面、意義、方法		
9	学校保健活動・・・保健管理：健康観察、健康相談		
10	学校保健活動・・・保健管理：健康診断、保健調査		

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分）  
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	学校保健活動・・・保健管理：感染症予防		
12	学校保健活動・・・保健管理：学校環境衛生		
13	学校保健活動・・・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置		
14	保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習と保健指導		
15	保健教育：性教育、薬物乱用防止教育、食育		

基本情報

科目名	救急処置法
時間割コード	0528432601
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	金 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	古賀 由紀子
科目区分	専門基礎分野 口腔保健学科専門基礎分野(歯・口)

担当教員情報

教員名
古賀 由紀子、井手 裕子

詳細情報

授業の目的・到達目標	生命にかかわる緊急を要するような重大事故時に処置に対する、正しい判断ができる。 学校現場での事故を予測し正しい知識と技術を身に付け児童生徒に対して応急処置ができる。 心肺蘇生法ができる。 救急処置対応計画を作成することができる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、前時の定着を確認するため小テストを実施する。 前時の質問に対しては授業の最初に答える。
評価方法	小テスト30%、定期試験70%として評価する
テキスト	・初心者のためのフィジカルアセスメント 救急保健管理と保健指導 永田利三郎 監修 東山書房 ・赤十字救急法教本 ・赤十字基礎講習教本(講習時に販売)
参考文献	
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	古賀：公立学校養護教諭経験

授業計画

授業計画
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション/救急処置の基本的知識(古賀)		
2	学校救急処置について/学校における救急体制(古賀)		
3	外傷時の救急処置(傷の種類とその処置)(古賀)		
4	外傷時の救急処置(頭部外傷、眼部外傷)(古賀)		
5	外傷時の救急処置(歯・口腔の外傷、熱傷等)(古賀)		
6	外傷時の救急処置(骨折、捻挫、脱臼、打撲等)(古賀)		
7	外傷時の救急処置(RICE処置・止血・テーピング)(井手)		
8	緊急時の救命処置(CPR理論)(古賀)		
9	緊急時の救命処置(AED理論)(古賀)		
10	緊急時の救命処置(CPR実技1)(古賀)		
11	緊急時の救命処置(CPR実技2)(古賀)		



授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分）  
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
12	内科的疾患の救急処置（発熱、けいれん、頭痛）（古賀）		
13	内科的疾患の救急処置（喘息、呼吸困難等の対応）（古賀）		
14	内科的疾患の救急処置（腹痛、下痢等の対応）（古賀）		
15	内科的疾患の救急処置（めまい等その他の対応）（古賀）		

基本情報

科目名	養護概説
時間割コード	0528900101
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	古賀 由紀子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名	
古賀 由紀子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務 内容と方法論で実証し、学校経営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能するかを把握し 説明できる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。 前時間の質問に対しては授業の最初に答える。
評価方法	レポート15%、筆記試験85%として評価
テキスト	・新訂 養護概説 編集代表 三木とみ子 ぎょうせい ・「新訂版学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規
参考文献	冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	古賀：公立学校養護教諭経験

授業計画

授業計画	
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	養護の概念		
2	養護教諭制度と歴史		
3	養護教諭の専門性、養護教諭の倫理		
4	養護教諭の活動拠点保健室—その役割と機能		
5	養護教諭の活動拠点保健室—保健室経営計画		
6	養護活動の過程		
7	養護教諭の実践—1 健康実態・健康問題の把握(健康観察、保健調査)		
8	養護教諭の実践—2 健康実態・健康問題の把握(健康診断)		
9	養護教諭の実践—3 支援の方法(救急処置活動)		
10	養護教諭の実践—4 支援の方法(健康相談)		
11	養護教諭の実践—5 養護活動の展開		
12	養護教諭の実践—6 環境整備(感染症予防、学校環境衛生)		
13	養護教諭の実践—7 健康教育活動(保健教育、保健便り)		

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分）  
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	養護教諭の実践－8 組織活動		
15	養護教諭と研究		

基本情報

科目名	健康相談論
時間割コード	0528432401
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	古賀 由紀子
科目区分	専門基礎分野 口腔保健学科専門基礎分野(歯・口)

担当教員情報

教員名
古賀 由紀子

詳細情報

授業の目的・到達目標	児童生徒の心の健康問題が深刻化し、学校の保健室でも心身両面の対応が養護教諭によって行われていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」についての理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べるができる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。
評価方法	レポート30%、まとめのテスト70%として評価する
テキスト	養護教諭の行う健康相談 大谷尚子 森田光子 東山書房
参考文献	学校保健実務必携 第一法規
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	古賀：公立学校養護教諭経験

授業計画

授業計画
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景 / 健康相談の基本的理解		
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談		
3	健康相談と健康相談活動(学校保健安全法との関連)		
4	健康相談に関連する諸理論		
5	健康相談のプロセス		
6	ヘルスアセスメントについて		
7	健康相談における子ども理解の方法(演習含む)		
8	健康相談での心理的理解		
9	健康相談における連携		
10	諸問題の捉え方と関わり方		
11	諸問題への具体的な対応について(事例研究の目的)		
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ 疾病を伴う事例		
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ 生活上での課題等様々な課題事例		
14	保健室登校と不登校の捉え方と対応		

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分）  
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	健康相談における記録、力量形成・研究 ・研修		

基本情報

科目名	養護概説
時間割コード	0528900101
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	古賀 由紀子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
古賀 由紀子

詳細情報

授業の目的・到達目標	養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務 内容と方法論で実証し、学校経営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能するかを把握し 説明できる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。 前時間の質問に対しては授業の最初に答える。
評価方法	レポート15%、筆記試験85%として評価
テキスト	・新訂 養護概説 編集代表 三木とみ子 ぎょうせい ・「新訂版学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規
参考文献	冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	古賀：公立学校養護教諭経験

授業計画

授業計画
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	養護の概念		
2	養護教諭制度と歴史		
3	養護教諭の専門性、養護教諭の倫理		
4	養護教諭の活動拠点保健室—その役割と機能		
5	養護教諭の活動拠点保健室—保健室経営計画		
6	養護活動の過程		
7	養護教諭の実践—1 健康実態・健康問題の把握(健康観察、保健調査)		
8	養護教諭の実践—2 健康実態・健康問題の把握(健康診断)		
9	養護教諭の実践—3 支援の方法(救急処置活動)		
10	養護教諭の実践—4 支援の方法(健康相談)		
11	養護教諭の実践—5 養護活動の展開		
12	養護教諭の実践—6 環境整備(感染症予防、学校環境衛生)		
13	養護教諭の実践—7 健康教育活動(保健教育、保健便り)		

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)  
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
14	養護教諭の実践－8 組織活動		
15	養護教諭と研究		

基本情報

科目名	健康相談論
時間割コード	0528432401
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	古賀 由紀子
科目区分	専門基礎分野 口腔保健学科専門基礎分野(歯・口)

担当教員情報

教員名
古賀 由紀子

詳細情報

授業の目的・到達目標	児童生徒の心の健康問題が深刻化し、学校の保健室でも心身両面の対応が養護教諭によって行われていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」についての理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べるができる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。
評価方法	レポート30%、まとめのテスト70%として評価する
テキスト	養護教諭の行う健康相談 大谷尚子 森田光子 東山書房
参考文献	学校保健実務必携 第一法規
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	古賀：公立学校養護教諭経験

授業計画

授業計画
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景 / 健康相談の基本的理解		
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談		
3	健康相談と健康相談活動(学校保健安全法との関連)		
4	健康相談に関連する諸理論		
5	健康相談のプロセス		
6	ヘルスアセスメントについて		
7	健康相談における子ども理解の方法(演習含む)		
8	健康相談での心理的理解		
9	健康相談における連携		
10	諸問題の捉え方と関わり方		
11	諸問題への具体的な対応について(事例研究の目的)		
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ 疾病を伴う事例		
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ 生活上での課題等様々な課題事例		
14	保健室登校と不登校の捉え方と対応		



授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分）  
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	健康相談における記録、力量形成・研究 ・研修		

基本情報

科目名	口腔保健指導論
時間割コード	0528441801
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	松尾 文
科目区分	専門分野 口腔保健学科専門分野(歯科保健)

担当教員情報

教員名	
松尾 文	

詳細情報

授業の目的・到達目標	対象者の歯・口腔の健康を維持増進するために、健康と疾患の概念を理解し、プロフェッショナルケア・セルフケアの基本となる論理的思考の基礎を学ぶ。専門的立場から助言や支援を行うために必要な知識を習得し、ライフステージ別の特徴を理解した上で支援方法について考察する。コミュニケーション技法を使って議論することができる。 対象者に合わせた口腔清掃方法について説明できる。 ライフステージに合わせた口腔保健指導計画を立案することができる。
履修上の注意事項	覚えるのではなく、考えること、それを自分の言葉で言語化することが中心の授業です。そのため、本講では予習が最も重要になります。毎回授業の終わりに、予習範囲は指示します。
評価方法	試験：60%、レポート・提出物：40% フィードバックとして、課題レポートにコメントして返却します。
テキスト	全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)，医歯薬出版
参考文献	公益社団法人日本歯科衛生士会 監修 歯科口腔保健の推進に向けて ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック，医歯薬出版
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業教員名及び実務内容	松尾文：歯科衛生士として歯科医院勤務経験

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	口腔の健康を保持増進することの意義を理解する	・事前 「健康とは」ということについて、自分の考えを言語化し、まとめる(60分) ・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)	
2	アセスメント、情報収集	・事前 全身疾患と口腔の関係について、自分の言葉でまとめる(60分) ・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)	
3	歯ブラシ、その他清掃用具の選択(グループワーク)	・事前 普段使っている歯磨剤の成分を分類する、各種ブラッシング法について教科書を見ながら忠実に実践し、レポートにまとめる(60分) ・事後 自分の担当清掃用具についてより深く調べて発表用資料を作成する(60分)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	口腔清掃用具の使用目的・使用方法（グループワーク）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 担当清掃用具についての発表に向けて、練習およびリハーサルを行う(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	
5	対象者に合わせた歯科保健指導（問題解決型学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 前回の他グループの発表資料を見直し、自分の言葉で説明できるようになる。(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	
6	行動変容に関する理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 行動変容に関するアンケートに回答する、教科書を見て行動変容理論について予習する。(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる</li> </ul>	
7	面接技法（グループワーク）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 う蝕および歯周病の原因と発生機序について微生物学的に理解し、自分の言葉で説明できるようになる(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	
8	妊産婦期における口腔保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 妊産婦期の特徴について教科書を見てまとめる(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	
9	乳幼児期における口腔保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 乳幼児期の特徴について教科書を見てまとめる(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	
10	学童期における口腔保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 学童期の特徴について教科書を見てまとめる(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	
11	青年期・成人期における口腔保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 青年期・成人期の特徴について教科書を見てまとめる(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	
12	老年期における口腔保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 老年期の特徴について教科書を見てまとめる、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて調べる(60分)</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる(30分)</li> </ul>	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	障がい者に対する口腔保健指導（問題解決型学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 障がい者の特徴について教科書を見てまとめる、ICFの分類について調べる（60分）</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる（30分）</li> </ul>	
14	禁煙指導、歯科衛生課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 禁煙ステージと禁煙支援についてまとめる、歯科衛生過程の書き方について教科書を読み復習する（60分）</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる（30分）</li> </ul>	
15	業務記録（SOAPIEを理解する）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前 SOAPについて説明できるようになる、歯科衛生士の業務記録について調べてまとめる（60分）</li> <li>・事後 学んだ内容を整理し、ノートにまとめる（30分）</li> </ul>	

基本情報

科目名	食生活指導
時間割コード	0528441901
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	薄井 由枝
科目区分	専門分野 口腔保健学科専門分野(歯科保健)

担当教員情報

教員名	
薄井 由枝	

詳細情報

授業の目的・到達目標	食生活は直接に口腔疾患や全身疾患と関係する。 歯科衛生士は、健康を維持・増進する役割を担うので、学修者は、栄養学・生化学の基礎知識と応用および技能を総合的に学ぶ。 五大栄養素の基本的な役割を学ぶ。食品成分と食品分類、ライフステージ別の栄養、食生活習慣について学ぶ。病態に対する食生活指導について説明することができ、食事指導内容を立案することができる。
履修上の注意事項	すでに学修している生化学・解剖生理学・生活栄養学の内容(消化・吸収・代謝など)・病理学の復習をしてください。授業中に配布する資料・プリントはファイルし、教科書と一緒に持参してください。
評価方法	評価は、理解度を確認する小テスト(75%)と、課題レポートの提出(25%)により行います。課題レポートは、フィードバックとしてコメントをして返却します。再試験は行いません。
テキスト	最新歯科衛生士教本 栄養と代謝, および 病理学・口腔病理学 医歯薬出版
参考文献	10% Human, アランナコリン(河出書房新社)
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	薄井由枝: 歯科衛生士として、大学病院、一般歯科歯科診療所、高齢者施設等での勤務経験

授業計画

授業計画	
<p>目標と計画: 問題解決型授業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生きて行くために必須である食生活を見直す。</li> <li>栄養学における学問的な情報を習得する。</li> <li>自身の健康維持に応用できるようになる。</li> <li>歯科衛生士としてライフステージごとの栄養学的保健指導ができるようになる。</li> <li>歯科衛生士として生活習慣病などの5大疾病予防のための保健指導ができる。</li> <li>歯科衛生士として高齢期・看取り期における食生活指導ができる。</li> </ol>	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	食生活と栄養(消化・吸収)	事前学修: 毎日の食餌を考察する 事後学修: 課題レポート提出	事前学修: 各テーマにおいて、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後学修: 配布スタディノートを整理し、課題レポートの作成を行う(2時間)
2	食事摂取基準(エネルギー必要量・代謝)	事前: ある1日の食事を記録する 事後: 課題レポート提出(エネルギー量の計算等)	
3	栄養素の働き(糖質・タンパク質・脂質)	事前: 3大栄養素の予習 事後: 課題レポート提出	
4	栄養素の働き(ビタミン類・ミネラル類・食物繊維・水)	事前: 栄養素の予習 事後: 課題レポート提出	
5	食品の成分(食品成分表)とカロリー	事前: 食品成分表を調べる 事後: 課題レポート提出	

授業計画

目標と計画：問題解決型授業

1. 生きて行くために必須である食生活を見直す。
2. 栄養学における学問的な情報を習得する。
3. 自身の健康維持に応用できるようになる。
4. 歯科衛生士としてライフステージごとの栄養学的保健指導ができるようになる。
5. 歯科衛生士として生活習慣病などの5大疾病予防のための保健指導ができる。
6. 歯科衛生士として高齢期・看取り期における食生活指導ができる。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	食べ物のおいしさ（味覚・物性・テクスチャー）	事前：味覚についての予習 事後：課題レポート提出	
7	食生活における嗜好と中毒	事前：中毒しやすい食品について調べる 事後：課題レポート提出	
8	WHOの指針と日本の現状：世界における健康課題および取り組み	事前：WHOについての予習 事後：課題レポート提出	
9	WHOの指針と日本の現状：日本における健康課題および取り組み	事前：厚生労働省HPを閲覧する 事後：課題レポート提出	
10	ライフステージ別の栄養と調理（妊娠期&乳幼児、食育・おやつ指導）	事前：おやつについての予習 事後：課題レポート提出	
11	ライフステージ別の栄養と調理（学童期・青年期）	事前：食育について予習 事後：課題レポート提出	
12	ライフステージ別の栄養と調理（成人期・高齢期）	事前：成人高齢期の栄養学的課題の復習 事後：課題レポート提出	
13	病態と食生活指導（糖尿病・脂質異常症・痛風・抗がん剤治療患者）	事前：5大疾病について予習 事後：課題レポート提出	
14	病態と食生活指導（高血圧症、動脈硬化症、腎臓病、骨粗鬆症）	事前：5大疾病について予習 事後：課題レポート提出	
15	歯科保健指導として的高齢期・看取り期における食生活を学ぶ	事前：看取りについて予習 事後：課題レポート提出	

基本情報

科目名	解剖生理学
時間割コード	1000330501
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	月 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	二科 安三
科目区分	専門科目 口腔保健学科専門科目(人体)

担当教員情報

教員名
二科 安三

詳細情報

授業の目的・到達目標	人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となるのは消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺(たとえば神経系等)にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。
履修上の注意事項	教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)
評価方法	期末試験(100%)で判定する。
テキスト	解剖生理学(人体の構造と機能[1])、坂井建雄、岡田隆夫,医学書院
参考文献	なし
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	はじめに 解剖学・生理学		
2	栄養の消化と吸収1 口・咽頭・食道・胃の構造と機能		
3	栄養の消化と吸収2 小腸・大腸の構造と機能		
4	栄養の消化と吸収3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能		
5	呼吸と血液の働き1 呼吸器の構造と呼吸運動、呼吸と血液の働き		
6	呼吸と血液の働き2 ガス交換とガスの運搬		
7	呼吸と血液の働き3 呼吸運動の調節		
8	呼吸と血液の働き4 血液の組成と機能		
9	血液の循環とその調節1 心臓の構造、心臓の興奮とその伝播		
10	血液の循環とその調節2 心臓の収縮、心周期、血液の循環とその調節		
11	血液の循環とその調節3 血圧・血流量の調節		
12	血液の循環とその調節4 微小循環、リンパの循環		
13	体液の調節と尿の生成1 腎臓の構造、糸球体・尿管。傍糸球体装置		
14	体液の調節と尿の生成2 糸球体濾過、クリアランス、排尿の機序		
15	体液の調節と尿の生成3 体液の調節		

基本情報

科目名	解剖生理学
時間割コード	1000340501
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	二科 安三
科目区分	専門科目 口腔保健学科専門科目(人体)

担当教員情報

教員名	
二科 安三	

詳細情報

授業の目的・到達目標	人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となるのは自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系である。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。
履修上の注意事項	教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)
評価方法	期末試験(100%)により判定する。
テキスト	解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 坂井建雄、岡田隆夫 医学書院
参考文献	なし。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画	
教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	神経系の構造と機能 神経系の構造、興奮の伝導と伝達		
2	自律神経による調節		
3	内分泌による調節1 ホルモンの構造、視床下部、下垂体		
4	内分泌による調節2 甲状腺、膵臓、副腎、甲状腺・副甲状腺		
5	内分泌による調節3 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節		
6	身体の支持と運動1 骨と筋の構造		
7	身体の支持と運動2 体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋		
8	身体の支持と運動3 筋の収縮		
9	情報の受容と処理1 中枢神経の構造と機能		
10	情報の受容と処理2 末梢神経の構造と機能		
11	情報の受容と処理3 脳の高次機能、運動機能、感覚機能		
12	情報の受容と処理4 特殊感覚の構造と機能		
13	身体機能の防御と適応1 皮膚の構造と機能、生体の防御機構		
14	身体機能の防御と適応2 体温とその調節		
15	生殖・発生と老化のしくみ		



基本情報

科目名	病態生理学
時間割コード	1000810501
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	専門科目 口腔保健学科専門科目(疾病)

担当教員情報

教員名
徳富 芳子

詳細情報

授業の目的・到達目標	病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学では、解剖生理学で学んだ人体の正常な仕組みに関する知識に基づき、疾病の成り立ちを基本的な機序に沿って整理する。さらに、その結果引き起こされる組織や臓器の変化に関する正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。正常な状態から病態への移行と回復過程に関する基本的知識を正確に理解し、説明できることを目標とする。
履修上の注意事項	1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること(1時間程度)。 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること(1時間程度)。 3) 講義プリントはファイルし、毎回、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくること。 4) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解すること。理解できない内容は講義の前後に質問すること。
評価方法	1) 筆記試験(100%)で、正常な状態から病態への移行と回復過程に関する基本的知識を正確に理解し、説明できるかを評価する。 2) 最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1]「病理学」大橋健一ほか著、医学書院
参考文献	1) なるほどなっとく!病理学 病態形成の基本的な仕組み 改訂2版、小林 著、南山堂 2) シンプル病理学 改訂第8版。笹野 他編、南江堂
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	病理学で学ぶこと、病気の原因(内因、外因)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
2	細胞・組織の障害と修復	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
3	循環障害 : 局所性	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
4	循環障害 : 全身性	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
5	炎症	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
6	免疫と免疫不全	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
7	アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
8	感染症	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
9	代謝障害 : 脂質代謝障害、タンパク質代謝障害	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
10	代謝障害：糖代謝障害、そのほかの代謝障害	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
11	老化と死	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
12	先天異常と遺伝子異常	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
13	腫瘍：腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
14	腫瘍：腫瘍の発生病理	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
15	腫瘍：腫瘍の診断と治療、腫瘍の統計	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

基本情報

科目名	感染症学
時間割コード	0528431501
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	金 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	専門基礎分野 口腔保健学科専門基礎分野(疾病)

担当教員情報

教員名
三森 龍之、徳富 芳子

詳細情報

授業の目的・到達目標	ヒトと共生する常在菌叢の働き,ヒトの健康を害する病原微生物・寄生虫の性質や感染機構を理解し,さらに代表的な感染症について,その感染経路,症状,予防・治療法に関する基礎知識を修得する。また,生体防御機構,各種感染症に有効な化学療法薬・消毒薬の病原体に対する作用とヒトへの影響について理解を深めるとともに,耐性菌,新興感染症・再興感染症の出現,日和見感染症の増加等の医療分野における重要な課題について説明できるようになる。さらに,がん治療に用いる化学療法薬の種類と作用機序についても概説できるようになる。
履修上の注意事項	1) 毎回の準備学習として,教科書を熟読する。『わかる!身につく!病原体・感染・免疫』(主に第1-6回に使用)、 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学』-第2章,3章,4章-(第7-15回に使用)(約1時間) 2) 授業には指定教科書,ノート,プリントを持参する。講義内容を書留め,その日の内に復習する(約1時間)。 3) 講義プリントはファイルし,専門用語を正確に覚え,その概念を正しく理解する。 4) 教科書・参考書・講義プリント等について理解できない箇所は,教員に質問する。
評価方法	1) 「授業の目的・到達目標」に示した内容の達成度を評価するため,学期末に筆記試験を行う。 配点:第1~6回の講義 40%、第7~15回 60% 2) 小テスト結果のフィードバックとして,授業内でポイントの解説を行う。
テキスト	1) 『わかる!身につく!病原体・感染・免疫 第3版』 藤本 編,南山堂3,080円 2) 教員作成プリント 3) 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学』吉岡 他著,医学書院2,530円
参考文献	1) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4微生物学』南嶋 他著,医学書院 2) 『わかりやすい薬理学 第4版』安原 他編,ヌーヴェルヒロカワ 3) 『コメディカルのための薬理学 第3版』渡邊 他編,朝倉書店
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	感染症学概論、常在菌叢とその働き(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
2	病原微生物の分類と特性(構造、性質、病原性、感染機構)(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
3	細菌と感染(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
4	真菌と感染(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
5	ウイルスと感染(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
6	寄生虫・原虫と感染(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
7	感染に対する生体防御機構(免疫系)、予防接種用薬(徳富)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
8	抗菌薬（抗生物質）（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
9	感染症に対する薬物（化学療法薬概論）、薬物動態（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
10	抗菌薬（合成抗菌薬）（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
11	抗結核薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
12	抗真菌薬、抗原虫薬、抗寄生虫薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
13	抗ウイルス薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
14	消毒薬・殺菌薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
15	抗がん薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

基本情報

科目名	生活栄養学
時間割コード	1000360501
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	未定
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

担当教員情報

教員名
未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>食べ物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来る。また、医療従事者として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食・栄養面の知識を、効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。</p>
履修上の注意事項	<p>履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、授業前にテキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」を読み事前に必ず予習して講義を受講すること。</p>
評価方法	<p>期末試験（筆記）95% 学習態度5%（出席日数・私語が多くて注意を受けたとき）</p>
テキスト	<p>「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ</p>
参考文献	<p>わかりやすい栄養学（三共出版）基礎栄養学（第一出版）日本人の食事摂取基準（2015年版）七訂補日本食品成分表 国民衛生の動向30年度 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表 応用栄養学（医歯薬出版）</p>
実務経験のある教員による授業	
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食行動と管理目標)		
2	食生活の課題(食と健康 食と健康 食文化)		
3	日本人の食事摂取基準		
4	栄養指導・保健指導(栄養指導の過程と栄養スクリーニング)		
5	食物と栄養(栄養素とその働き)(1)炭水化物、エネルギー		
6	食物と栄養(栄養素とその働き)(2)脂質・たんぱく質		
7	3食物と栄養(栄養素とその働き(3))ビタミン・無機質		
8	食物の摂取と消化・吸収(食欲・消化の調節・栄養素の吸収)		
9	ライフステージと健康教育(妊娠・授乳期・乳幼児期)		

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
10	ライフステージと健康教育（学童期・思春期）		
11	ライフステージと健康教育（成人期・老年期）		
12	疾患別食事指導の実際（1）糖尿病、高血圧、脂質異常症		
13	疾患別食事指導の実際（2）虚血性心疾患 脳卒中等		
14	疾患別食事指導の実際（3）慢性腎臓病 摂食嚥下障害等		
15	経管栄養と中心静脈栄養（栄養療法 経腸・静脈栄養法・栄養管理におけるチームアプローチ）		

基本情報

科目名	薬理学
時間割コード	0528431701
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	水 5
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	福泉 忠興
科目区分	専門基礎分野 口腔保健学科専門基礎分野（疾病）

担当教員情報

教員名
福泉 忠興

詳細情報

授業の目的・到達目標	薬理学は疾病の治療、予防、診断における合理的な薬物療法を追求する学問である。薬物は疾病の原因除去や、症状緩和を目的に使用されるが、副作用を誘引しない薬物はない。すなわち、薬物の有用な作用だけでなく副作用も認識したうえで、薬物を選択し投与しなければならない。そのためには全身的な疾患に対する幅広い薬物の知識を修得できることが大切である。この講義では、薬理学の基礎的な概念を総論を通じて学習し、各論において個々の薬物の薬理作用を理解することを到達目的とする。
履修上の注意事項	講義内容が難しいため、復習は必須である。
評価方法	期末試験（筆記試験）（100％）による評価
テキスト	最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学（第2版） 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版株式会社）
参考文献	知っておきたい歯科衛生士のためのくすりの知識（デンタルダイヤモンド社）
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	歯科医師として歯科臨床経験

授業計画

授業計画
<p>事前学修：毎回の講義内容についてわからない事項について教科書を読んで調べておくこと。（2時間）</p> <p>事後学修：毎回ノートをしっかり整理する。わからない用語は他者に説明できるように調べておくこと。（2時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>総論（薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用に影響を与える因子、薬物の投与と薬物動態）</li> <li>総論（薬物の連用、薬物の併用、薬物の有害反応）</li> <li>総論（医薬品、剤型、処方箋と調剤）</li> <li>中枢神経系に作用する薬物（中枢性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬）</li> <li>中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、睡眠剤、抗不安薬）</li> <li>末梢神経系に作用する薬物（局所麻酔薬）</li> <li>末梢神経系に作用する薬物（自律神経系に作用する薬物、神経・筋接合部に作用する薬物）</li> <li>呼吸・循環器に作用する薬物（強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、抗高血圧薬、気管支喘息治療薬、鎮咳薬および去痰薬）</li> <li>血液と薬（出血と止血、止血薬、血液凝固阻止薬）</li> <li>抗炎症薬（炎症の経過、炎症とケミカルメディエーター、ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤）</li> <li>ビタミン・ホルモン（脂溶性・水溶性ビタミン、脳下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、脾臓ホルモン）</li> <li>病原微生物に作用する薬物（各種消毒薬の分類と作用機序、抗生物質分類と副作用、抗生物質の作用機序による分類）</li> <li>抗悪性腫瘍治療薬（アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗癌抗生物質、ホルモン剤、植物アルカロイド、免疫療法薬）</li> <li>免疫と薬（免疫増強薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、ワクチン）</li> <li>服薬指導（コンプライアンス、患者に伝えるべき基本事項、服用時間、薬物相互作用、小児への服薬指導、妊産婦への服薬指導、高齢者への服薬指導、障害者への服薬指導）</li> </ol>

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	精神保健
時間割コード	0528432301
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	水間 宗幸
科目区分	専門基礎分野 口腔保健学科専門基礎分野(歯・口

担当教員情報

教員名
水間 宗幸、平川 泰士

詳細情報

授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。</li> <li>・精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種との役割と連携について基礎的知識を備える。</li> </ul>
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である(配布資料は何回か使用する可能性がある)。</li> <li>2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。</li> <li>3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。</li> </ol>
評価方法	試験による評価(70%)および授業中のレスポンスやミニレポート(30%)。なお希望者には個別に評価内容を伝える。
テキスト	「最新 精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援」 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (中央法規)
参考文献	
実務経験のある教員による授業	
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	精神保健の概要(担当:水間)		
2	精神保健分野の動向と基本的考え方(担当:水間)		
3	社会構造の変化と新しい健康観(担当:水間)		
4	ストレスと精神の健康(担当:水間)		
5	家族およびライフサイクルと精神の健康(出生前~思春期)(担当:水間)		
6	家族およびライフサイクルと精神の健康(青年期~老年期)(担当:水間)		
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(担当:水間)		
8	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(担当:水間)		
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 貧困、ホームレス、引きこもりと精神保健等(担当:水)		
10	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 異文化接触、LGBT、触法行為と精神保健等(担当:		



授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	精神保健に関する発生予防と対策 うつ病と自殺予防対策等		
12	精神保健に関する発生予防と対策 家族に関する子育て支援と虐待予防、引きこもり等		
13	地域精神保健に関する偏見・差別の課題（担当：水間）		
14	精神保健に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携（担当：平川）		
15	精神保健に関する国際的動向（担当：水間）		

基本情報

科目名	看護学概論
時間割コード	1000290501
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	金 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元

詳細情報

授業の目的・到達目標	看護専門職としての自己の健康観、看護観を追及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。
履修上の注意事項	課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習（各2時間）について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。
評価方法	筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学（1）、茂野香おる 他（医学書院）
参考文献	随時、紹介する。
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	担当者は病院、施設等における看護師、保健師、学校における養護教諭の実務経験者である。

授業計画

授業計画
看護学概論は看護に関する幅広い知識を学ぶことで、保健医療福祉の専門職者としての自身の考えを明らかにすることを目指した学習である。ここでの学びは、今後の授業内容にもつながることである。また、専門職者として活動する上で、必要不可欠な知識の習得の場である。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）	オリエンテーション時に事前・事後学習について説明する。事前学習についてはキャンパススクエアで確認する。	
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
3	国民の健康状態（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
4	看護の対象の理解（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
5	サービスとしての看護、看護サービス提供の場（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
6	災害時における看護（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
7	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
8	医療安全と医療の質保証（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

授業計画

看護学概論は看護に関する幅広い知識を学ぶことで、保健医療福祉の専門職者としての自身の考えを明らかにすることを目指した学習である。ここでの学びは、今後の授業内容にもつながることである。また、専門職者として活動する上で、必要不可欠な知識の習得の場である。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
9	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
10	看護における倫理（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
11	国際化と看護（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
12	看護とはなにか（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
13	小テスト2、看護の本質と実践について（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
14	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認する。事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

基本情報

科目名	看護学各論
時間割コード	0528900201
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	月 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	吉岡 久美
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名	
吉岡 久美	

詳細情報

授業の目的・到達目標	生活者に発生する疾患や症状の理解を深め、看護の視点や方法について学習することを目的とする。 また、養護教諭の職務の一領域である学校看護に必要な看護学を学ぶ。学校看護は、児童・生徒の生命を守り、健康の維持・増進を図ることを目的とし、また重要な教育活動である意義を理解する。心身のメカニズム、疾病・異常など、臨床看護実習にも必要な知識・技術を習得するとともに、これらを学校看護の教育としての独自性の中にかすことを学ぶ。
履修上の注意事項	事前学習として、それぞれの単元で扱う項目に関する事柄を、テキストから拾い上げておき、講義に臨むこと。 事後学習では、講義終了後にノートをまとめなおし、関連する疾患や状態像と合わせて理解を深めること。 (事前事後学習で60分程度)
評価方法	課題の提出等 20% 筆記試験(小テスト含む)80% 提出された課題レポートについてはコメントを入れて返却する
テキスト	養護教諭のための看護学 改訂版 藤井寿美子他 大修館書店
参考文献	
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	吉岡久美：大学病院(看護師)、一般病院(看護師長)、訪問看護ステーション(訪問看護師・管理者)

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	看護の基礎と看護行為の基本、疾病の経過や治療処置に伴う看護の理解を深める	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと(各20分)	
2	循環器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと(各20分)	
3	呼吸器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと(各20分)	
4	消化器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと(各20分)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	造血器系疾患、内分泌疾患・代謝系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
6	泌尿器・生殖器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
7	運動器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
8	脳神経系疾患、精神系疾患の発生機序とその看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
9	感覚器系疾患に関する病態とその看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
10	救命救急看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
11	発熱・腹痛・頭痛・嘔気嘔吐・呼吸困難・けいれんなどの症状別看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
12	小児看護と母性看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
13	思春期看護、障害のある方への看護を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
14	老年、精神看護を理解する（在宅を含む）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	
15	ターミナルケアからグリーフケアまでの重要性を理解する	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各20分）	

基本情報

科目名	基礎看護技術
時間割コード	0528900301
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	4.0
学年	2
主担当教員	吉岡 久美
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>養護教諭に必要な看護技術の基礎知識を習得することを目的としている。</p> <p>1. 健康の回復、維持増進を図るための看護技術を実践できる。</p> <p>2. 看護の基礎技術を学習し習得することで、援助過程での活用の意義を説明することができる。</p>
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は動きやすい服装（ジャージ等）と靴を準備すること</li> <li>・準備物等は掲示板にて連絡するため、確認しておくこと</li> <li>・講義および演習の構成上、展開計画の流れが変更となることがあるが、事前に掲示するため注意し、十分に事前学習をしてレポート作成すること</li> <li>・事後学習では、関連する疾病や状態像と合わせて理解を深め、課題に取り組むこと。（事前事後60分）</li> </ul>
評価方法	<p>筆記試験 70% 学習への取り組み, 課題の提出 30%</p> <p>提出された課題レポートについてはコメントを入れて返却する</p>
テキスト	基礎看護技術（メディカ出版）
参考文献	養護教諭講座3 新版 基礎看護学（東山書房）
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>吉岡久美：大学病院（看護師）、一般病院（看護部長）、訪問看護ステーション（訪問看護師・管理者）</p> <p>柴田恵子：基礎看護学分野教員</p> <p>古江佳織：基礎看護学分野教員 看護師経験</p> <p>古堅裕章：基礎看護学分野教員 看護師経験</p> <p>赤峰隆元：基礎看護学分野教員 看護師経験</p>

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	病床環境調整の必要性とその方法について学習し実践する。（吉岡）	事前学習として、テキストを基に病院及び病床環境についてまとめること。病床の援助としてベッドメイキングの方法を確認しておく。 事後学習として、患者の状態に応じた環境の調整について整理する。	
2	生命の兆候を観察する技術を知り、バイタルサインの示す意味と測定方法を習得する。（吉岡）	事前学習として、バイタルサインとは何か、そのチェックにおける方法と留意点をまとめる。 事後学習として、実際の測定における困難と工夫、確実な実践方法を整理する。	
3	安全を守る技術を習得し、安楽な体位を理解して移動等の支援の実践方法を習得する。（柴田）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	運動と休息の影響を理解し、体位、運動の援助方法を習得する。（古堅）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
5	栄養管理を含めた食事の重要性を理解し、形態、摂取方法について理解する。（古堅）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
6	排泄の意義・目的を理解し、その管理方法と援助について実践する。（柴田）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
7	身体の清潔の目的を理解して、衣服管理・交換方法を含めた援助を実践する。（柴田）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
8	身体の清潔の目的を理解して、身体保清の具体的方法を習得する。（古江）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
9	電法の適応を理解して実践し、安楽かつ快適さを確保する技術を習得する。（吉岡）	事前学習として、電法の目的、種類、留意点を整理する。 事後学習として、電法の効果と危険性について整理する。	
10	検査・治療を安全かつ正確に行う技術を理解し、対象者の理解と看護の役割を知る。（古江）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
11	感染の具体的予防としての管理方法、清潔操作、創傷管理等を実践する。（古江）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
12	与薬についての知識を深め、薬剤の管理と投与方法を理解する。（赤峰）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
13	安楽な呼吸のための吸引、吸入の目的と種類を理解し、手技と管理方法を習得する。（古江）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
14	救急救命処置の技術を理解し、緊急時の判断ができる能力を習得する。（赤峰）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
15	危篤・終末時の心理・生理的变化を踏まえて死を迎える時の援助を習得する。（吉岡）	事前学習として、終末期における身体・精神的变化をテキストから学習する。 事後学習として、死を迎える本人と周りの人への処置・対応をまとめる。	

基本情報

科目名	臨床看護実習
時間割コード	0528900401
開講所属	看護福祉学部口腔保健学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	吉岡 久美
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名	
吉岡 久美	

詳細情報

授業の目的・到達目標	看護学・基礎看護技術で学習した知識・技術をもとに病院臨床の場でさらに観察し、実際に行ってみるにより看護の理解を深める。 学校保健活動及び養護教諭の職務、養護実習との関連を考え、臨床看護実習の意義を理解し説明できる。
履修上の注意事項	・実習事前指導に出席すること ・事前学習として、これまで学んだ解剖生理、病態、医学一般、看護学各論、基礎看護技術、薬理学等を中心に復習しておくこと ・事後学習では、報告会での他実習先での学びを振り返り、体験できなかった技術や対応について、その方法・留意点をまとめること (事前事後120分)
評価方法	実習成績(90%)・実習病院等の評価 実習態度、看護実習レポート、カンファレンスへの参加や学内実習態度(発表)の積極性(10%) レポートについてはコメントを入れて返却する
テキスト	実習要項、実習資料
参考文献	基礎看護技術 メディカ出版
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	吉岡久美：大学病院(看護師)、一般病院(看護師長)、訪問看護ステーション(訪問看護師・管理者) 古城玲子：看護師経験

授業計画

授業計画	
<p>目的：看護学・基礎看護技術で学習した知識・技術をもとに病院臨床の場でさらに観察し、実際に行ってみるにより看護の理解を深める。 学校保健活動及び養護教諭の職務、養護実習との関連を考え、臨床看護実習の意義を理解し説明できる。</p> <p>8日間の臨床実習及び2日間の学内実習を行うにあたり、実習先における実践に関する事前学習を毎日行い、その日に体験した実践を振り返り整理すること (事前事後学習を合わせて90分を目安とする)</p>	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			